

○中学校学習指導要領

改正前	改正後	備考
<p style="text-align: center;"><b>第1章 総則</b></p> <p>第1 教育課程編成の一般方針</p> <p>1 (略)</p> <p>2 学校における道德教育は、道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道德の時間はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。</p> <p>道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成するため、その基盤としての道德性を養うことを目標とする<sup>*1</sup>。</p> <p>3 (略)</p> <p>第2 内容等の取扱いに関する共通的事項</p> <p>1 第2章以下に示す各教科、道德及び特別活動の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない。</p> <p>2 学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。また、第2章以下に示す内容の取扱いのうち内容の範囲や程度等を示す事項は、すべての生徒に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校において特に必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができる。ただし、これらの場合には、第2章以下に示す各教科、道德及び特別活動並びに各学年、各分野又は各言語の目標や内容の趣旨を逸脱したり、生徒の負担過重となったりすることのないようにしなければならない。</p>	<p style="text-align: center;"><b>第1章 総則</b></p> <p>第2 教育課程編成の一般方針</p> <p>1 (略)</p> <p>2 学校における道德教育は、特別の教科である道德（以下「道德科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道德科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。</p> <p>道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とする。</p> <p>道德教育を進めるに当たっては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意しなければならない<sup>*1</sup>。</p> <p>3 (略)</p> <p>第2 内容等の取扱いに関する共通的事項</p> <p>1 第2章以下に示す各教科、道德科及び特別活動の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない。</p> <p>2 学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。また、第2章以下に示す内容の取扱いのうち内容の範囲や程度等を示す事項は、全ての生徒に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校において特に必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができる。ただし、これらの場合には、第2章以下に示す各教科、道德科及び特別活動並びに各学年、各分野又は各言語の目標や内容の趣旨を逸脱したり、生徒の負担過重となったりすることのないようにしなければならない。</p>	<p>※1 改正前の「道德」としての目標から、「特別の教科である道德（道德科）」の目標として再構成された。目標としては以前と変わらず「道德性の育成」としつつも、道德教育を進めるに当たっての配慮事項として、「主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意しなければならない」とされた。</p>

## ○中学校学習指導要領

3 第2章以下に示す各教科、道徳及び特別活動並びに各学年、各分野又は各言語の内容に掲げる事項の順序は、特に示す場合を除き、指導の順序を示すものではないので、学校においては、その取扱いについて適切な工夫を加えるものとする。

4～7 (略)

### 第3章 道徳

#### 第2 内容

道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、次のとおりとする<sup>※2</sup>。

#### 第3 授業時数等の取扱い

1 各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（以下「各教科等」という。ただし、1及び3において、特別活動については学級活動（学校給食に係るものを除く。）に限る。）の授業は、年間35週以上にわたって行うよう計画し、週当たりの授業時数が生徒の負担過重にならないようにするものとする。ただし、各教科等（特別活動を除く。）や学習活動の特質に応じ効果的な場合には、夏季、冬季、学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め、これらの授業を特定の期間に行うことができる。なお、給食、休憩などの時間については、学校において工夫を加え、適切に定めるものとする。

2～5 (略)

#### 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

1 (略)

2 以上のほか、次の事項に配慮するものとする。

(1)～(14) (略)

### 第3章 道徳

#### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 各学校においては、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開するため、次に示すところにより、道徳教育の全体計画と道徳の時間の年間指導計画を作成するものとする<sup>※3</sup>。

(1) 道徳教育の全体計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、生徒、学校及び地域の実態を考慮して、

3 第2章以下に示す各教科、道徳科及び特別活動並びに各学年、各分野又は各言語の内容に掲げる事項の順序は、特に示す場合を除き、指導の順序を示すものではないので、学校においては、その取扱いについて適切な工夫を加えるものとする。

4～7 (略)

8 道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容とする<sup>※2</sup>。

#### 第3 授業時数等の取扱い

1 各教科、道徳科、総合的な学習の時間及び特別活動（以下「各教科等」という。ただし、1及び3において、特別活動については学級活動（学校給食に係るものを除く。）に限る。）の授業は、年間35週以上にわたって行うよう計画し、週当たりの授業時数が生徒の負担過重にならないようにするものとする。ただし、各教科等（特別活動を除く。）や学習活動の特質に応じ効果的な場合には、夏季、冬季、学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め、これらの授業を特定の期間に行うことができる。なお、給食、休憩などの時間については、学校において工夫を加え、適切に定めるものとする。

2～5 (略)

#### 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

1 (略)

2 各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1)～(14) (略)

3 道徳教育を進めるに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 各学校においては、第1の2に示す道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。なお、道徳教育の全体計画の作成に当たっては、生徒、学校及び地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容との関連を踏ま

※2 道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、「第3章 特別の教科である道徳」の第2に示す内容であることが、以前の「第3章 道徳」ではなく総則に明記された。

## ○中学校学習指導要領

学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、第2に示す道徳の内容との関連を踏まえた各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示す必要があること。

- (3) 各学校においては、生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。特に、自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすることなどに配慮し、生徒や学校の実態に応じた指導を行うよう工夫すること。また、悩みや葛藤等の思春期の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、道徳的価値に基づいた人間としての生き方について考えを深められるよう配慮すること。

第1 (略)

2 (前段略)

道徳教育を進めるに当たっては、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深めるとともに、生徒が道徳的価値に基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮しなければならない。その際、特に生徒が自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすることなどに配慮しなければならない。

第3章 道徳

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 4 道徳教育を進めるに当たっては、学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、学校の道徳教育の指導内容が生徒の日常生活に生かされるようにする必要がある。また、道徳の時間の授業を公開したり、授業の実施や地域教材の開発や活用などに、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図るよう配慮する必要がある<sup>※4</sup>。

えた各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと<sup>※3</sup>。

- (2) 各学校においては、生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。その際、小学校における道徳教育の指導内容を更に発展させ、自立心や自律性を高め、規律ある生活をする事、生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること、法やきまりの意義に関する理解を深めること、自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養うこと、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けることに留意すること。

- (3) 学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。また、道徳教育の指導内容が、生徒の日常生活に生かされるようにすること。その際、いじめの防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意すること。

- (4) 学校の道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表したり、道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること<sup>※4</sup>。

※3 校長の方針の明確化や「道徳教育推進教師」を中心とした全教師による協力体制の整備が、以前の「第3章 道徳」ではなく総則に明記された。

※4 道徳教育における家庭や地域との協力、相互理解に関し、以前の「第3章 道徳」ではなく総則に明記された。

○中学校学習指導要領

<p style="text-align: center;"><b>第2章 各教科</b> <b>第1節 国語</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)～(5) (略)</p> <p>(6) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※5</sup>。</p> <p>2・3 (略)</p>	<p style="text-align: center;"><b>第2章 各教科</b> <b>第1節 国語</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)～(5) (略)</p> <p>(6) 第1章総則の第1の2に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※5</sup>。</p> <p>2・3 (略)</p>	<p>※5 第1章及び第3章が改正されたことを受け、「特別の教科 道德」として改正された。</p>
<p style="text-align: center;"><b>第2節 社会</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)～(3) (略)</p> <p>(4) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、社会科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※6</sup>。</p> <p>2・3 (略)</p>	<p style="text-align: center;"><b>第2節 社会</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)～(3) (略)</p> <p>(4) 第1章総則の第1の2に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、社会科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※6</sup>。</p> <p>2・3 (略)</p>	<p>※6 第1章及び第3章が改正されたことを受け、「特別の教科 道德」として改正された。</p>
<p style="text-align: center;"><b>第3節 数学</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)・(2) 略</p> <p>(3) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、数学科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※7</sup>。</p> <p>2～4 (略)</p>	<p style="text-align: center;"><b>第3節 数学</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)・(2) (略)</p> <p>(3) 第1章総則の第1の2に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、数学科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※7</sup>。</p> <p>2～4 (略)</p>	<p>※7 第1章及び第3章が改正されたことを受け、「特別の教科 道德」として改正された。</p>
<p style="text-align: center;"><b>第4節 理科</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)～(5) (略)</p> <p>(6) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の</p>	<p style="text-align: center;"><b>第4節 理科</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)～(5) (略)</p> <p>(6) 第1章総則の第1の2に示す道德教育の目標に基づき、道德科</p>	

○ **中学校学習指導要領**

<p>目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、理科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※8</sup>。</p> <p>2～4 (略)</p>	<p>などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、理科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※8</sup>。</p> <p>2～4 (略)</p>	<p>※8 第1章及び第3章が改正されたことを受け、「特別の教科 道徳」として改正された。</p>
<p style="text-align: center;"><b>第5節 音楽</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)～(3) (略)</p> <p>(4) 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、音楽科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※9</sup>。</p> <p>2 (略)</p>	<p style="text-align: center;"><b>第5節 音楽</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)～(3) (略)</p> <p>(4) 第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、音楽科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※9</sup>。</p> <p>(2) (略)</p>	<p>※9 第1章及び第3章が改正されたことを受け、「特別の教科 道徳」として改正された。</p>
<p style="text-align: center;"><b>第6節 美術</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)～(4) (略)</p> <p>(5) 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、美術科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※10</sup>。</p> <p>2～4 (略)</p>	<p style="text-align: center;"><b>第6節 美術</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)～(4) (略)</p> <p>(5) 第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、美術科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※10</sup>。</p> <p>2～4 (略)</p>	<p>※10 第1章及び第3章が改正されたことを受け、「特別の教科 道徳」として改正された。</p>
<p style="text-align: center;"><b>第7節 保健体育</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)・(2) (略)</p> <p>(3) 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、保健体育科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※11</sup>。</p>	<p style="text-align: center;"><b>第7節 保健体育</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (1)・(2) (略)</p> <p>(3) 第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、保健体育科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※11</sup>。</p>	<p>※11 第1章及び第3章が改正されたことを受け、「特別の教科 道徳」として改正された。</p>

○中学校学習指導要領

<p style="text-align: center;"><b>第8節 技術・家庭</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1)～(3) (略)</p> <p>(4) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、技術・家庭科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※12</sup>。</p> <p>2～4 (略)</p>	<p style="text-align: center;"><b>第8節 技術・家庭</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1)～(3) (略)</p> <p>(4) 第1章総則の第1の2に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、技術・家庭科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※12</sup>。</p> <p>2～4 (略)</p>	<p>※12 第1章及び第3章が改正されたことを受け、「特別の教科 道德」として改正された。</p>
<p style="text-align: center;"><b>第9節 外国語</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1・2 (略)</p> <p>3 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、外国語科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※13</sup>。</p>	<p style="text-align: center;"><b>第9節 外国語</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1・2 (略)</p> <p>3 第1章総則の第1の2に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、外国語科の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※13</sup>。</p>	<p>※13 第1章及び第3章が改正されたことを受け、「特別の教科 道德」として改正された。</p>

## ○中学校学習指導要領

### 第3章 道徳

#### 第1 目標

道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする<sup>※14</sup>。

#### 第2 内容

道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、次のとおりとする<sup>※15</sup>。

##### 1 主として自分自身に関すること。

(3) 自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ<sup>※16</sup>。

(1) 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする<sup>※17</sup>。

(5) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する<sup>※18</sup>。

(2) より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ<sup>※19</sup>。

(4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく<sup>※20</sup>。

### 第3章 特別の教科 道徳

#### 第1 目標

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる<sup>※14</sup>。

#### 第2 内容

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要である道徳科においては、以下に示す項目について扱う<sup>※15</sup>。

##### A 主として自分自身に関すること

[自主、自律、自由と責任]

自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと<sup>※16</sup>。

[節度、節制]

望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする<sup>※17</sup>。

[向上心、個性の伸長]

自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること<sup>※18</sup>。

[希望と勇気、克己と強い意志]

より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること<sup>※19</sup>。

[真理の探究、創造]

真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること<sup>※20</sup>。

※14 道徳的な多様な価値観を重視しつつ、再構成された。

※15 内容においては、従来の「1 主として自分自身に関すること」「2 主として他の人とのかかわりに関すること」「3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」「4 主として集団や社会とのかかわりに関すること」が、「A 主として自分自身に関すること」「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」に再構成された。

※16 「1 主として自分自身に関すること」の(3)に相当。

※17 「1 主として自分自身に関すること」の(1)に相当。

※18 「1 主として自分自身に関すること」の(5)に相当。

※19 「1 主として自分自身に関すること」の(2)に相当。

※20 「1 主として自分自身に関すること」の(4)に相当。

## ○中学校学習指導要領

### 2 主として他の人とのかかわりに関すること。

- (2) 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ<sup>※21</sup>。
- (6) 多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる<sup>※21</sup>。
- (1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる<sup>※22</sup>。
- (3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う<sup>※23</sup>。
- (4) 男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する<sup>※23</sup>。
- (5) それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ<sup>※24</sup>。

### 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。

- (1) 法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める<sup>※25</sup>。
- (3) 正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める<sup>※26</sup>。
- (2) 公徳心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める<sup>※27</sup>。
- (5) 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める<sup>※28</sup>。
- (6) 父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く<sup>※29</sup>。

### B 主として人との関わりに関すること

#### [思いやり, 感謝]

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること<sup>※21</sup>。

#### [礼儀]

礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること<sup>※22</sup>。

#### [友情, 信頼]

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと<sup>※23</sup>。

#### [相互理解, 寛容]

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと<sup>※24</sup>。

### C 主として集団や社会との関わりに関すること

#### [遵法精神, 公徳心]

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切に、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること<sup>※25</sup>。

#### [公正, 公平, 社会正義]

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること<sup>※26</sup>。

#### [社会参画, 公共の精神]

社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること<sup>※27</sup>。

#### [勤労]

勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること<sup>※28</sup>。

#### [家族愛, 家庭生活の充実]

父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと<sup>※29</sup>。

※21 「2主として他の人とのかかわりに関すること」の(2)(6)に相当。

※9 「2主として他の人とのかかわりに関すること」の(1)に相当。

※23 「2主として他の人とのかかわりに関すること」の(3)(4)に相当。

※24 「2主として他の人とのかかわりに関すること」の(5)に相当。

※25 「4主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(1)に相当。

※26 「4主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(3)に相当。

※27 「4主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(2)に相当。

※28 「4主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(5)に相当。

※29 「4主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(6)に相当。



## ○中学校学習指導要領

- (4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める<sup>※30</sup>。
- (7) 学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する<sup>※30</sup>。
- (8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める<sup>※31</sup>。
- (9) 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する<sup>※32</sup>。
- (10) 世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する<sup>※33</sup>。

### 3主として自然や崇高なもののかかわりに関すること。

- (1) 生命の尊さを理解し、かけがえのない自他や生命を尊重する<sup>※34</sup>。
- (2) 自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたいものに対する畏敬の念を深める<sup>※35・36</sup>。
- (3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める<sup>※37</sup>。

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 各学校においては、校長の方針の下に、道德教育の推進を主に担当する教師（以下「道德教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道德教育を展開するため、次に示すところにより、道德教育の全体計画と道德の時間の年間指導計画を作成するもの

### [よりよい学校生活，集団生活の充実]

教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること<sup>※30</sup>。

### [郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度]

郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること<sup>※31</sup>。

### [我が国の伝統と文化の尊重，国を愛する態度]

優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること<sup>※32</sup>。

### [国際理解，国際貢献]

世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること<sup>※33</sup>。

### D 主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること

#### [生命の尊さ]

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること<sup>※34</sup>。

#### [自然愛護]

自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること<sup>※35</sup>。

#### [感動，畏敬の念]

美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること<sup>※36</sup>。

#### [よりよく生きる喜び]

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと<sup>※37</sup>。

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 各学校においては、道德教育の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道德科の年間指導計画を作成するものとする。なお、作成に当たっては、第2に示す内容項目について、各学年において全て取り上げるこ

※30 「4主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(4)(7)に相当。

※31 「4主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(8)に相当。

※32 「4主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(9)に相当。

※33 「4主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(10)に相当。

※34 「3主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の(1)に相当。

※35 「3主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の(2)に相当。

※36 「3主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の(2)に相当。

※37 「3主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の(3)に相当。

## ○中学校学習指導要領

とする※<sup>38</sup>。

(2) 道徳の時間の年間指導計画の作成に当たっては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、計画的、発展的に授業がなされるよう工夫すること。その際、第2に示す各内容項目の指導の充実を図る中で、生徒や学校の実態に応じ、3学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導を行うよう工夫すること。ただし、第2に示す内容項目はいずれの学年においてもすべて取り上げる

こと。  
3 道徳の時間における指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする※<sup>39</sup>。

(1) 学級担任の教師が行うことを原則とするが、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。

第1 (略)

(前段 略)

道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

第3 (略)

2 第2に示す道徳の内容は、生徒が自ら道徳性をはぐくむためのものであり、道徳の時間はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動においてもそれぞれの特質に応じた適切な指導を行うものとする。その際、生徒自らが成長を実感でき、これからの課題や目標が見付けられるよう工夫する必要がある。

3 (略)

ととする。その際、生徒や学校の実態に応じ、3学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする※<sup>38</sup>。

2 第2の内容の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする※<sup>39</sup>。

(1) 学級担任の教師が行うことを原則とするが、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。

(2) 道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、計画的・発展的な指導を行うこと。特に、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うことや、生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意すること。

(3) 生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。その際、道徳性を養うことの意義について、生徒自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること。また、発達段階を考慮し、人間としての弱さを認めながら、それを乗り越えてよりよく生きようとすることのよさについて、教師が生徒と共に考える姿勢を大切にすること。

※<sup>38</sup> 校長の方針や道徳教育推進教師に関しては総則に明記され、3章では他教科との関連などが引き継がれた。

※<sup>39</sup> 「特別の教科 道徳」としての配慮事項が再構成された。

○中学校学習指導要領

<p style="text-align: center;"><b>第4章 総合的な学習の時間</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1)～(5) (略)</p> <p>(6) 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること<sup>※40</sup>。</p> <p>(7) 各教科、道徳及び特別活動の目標及び内容との違いに留意しつつ、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動を行うこと<sup>※40</sup>。</p> <p>(8) (略)</p> <p>(9) 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、総合的な学習の時間の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※40</sup>。</p> <p>2 (略)</p>	<p style="text-align: center;"><b>第4章 総合的な学習の時間</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1)～(5) (略)</p> <p>(6) 各教科、道徳科及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること<sup>※40</sup>。</p> <p>(7) 各教科、道徳科及び特別活動の目標及び内容との違いに留意しつつ、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえた適切な学習活動を行うこと<sup>※40</sup>。</p> <p>(8) (略)</p> <p>(9) 第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、総合的な学習の時間の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※40</sup>。</p> <p>2 (略)</p>	<p>※40 第1章及び第3章が改正されたことを受け、「特別の教科 道徳」として改正された。</p>
<p style="text-align: center;"><b>第5章 特別活動</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画の作成に当たっては、学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達の段階などを考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。また、各教科、道徳及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫すること<sup>※41</sup>。</p> <p>(2)・(3) (略)</p> <p>(4) 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、特別活動の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※41</sup>。</p> <p>2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) [学級活動]については、学校、生徒の実態及び第3章道徳の第3の1の(3)に示す道徳教育の重点などを踏まえ、各学年において</p>	<p style="text-align: center;"><b>第5章 特別活動</b></p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取扱い</p> <p>1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) 特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画の作成に当たっては、学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達の段階などを考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。また、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図るとともに、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫すること<sup>※41</sup>。</p> <p>(2)・(3) (略)</p> <p>(4) 第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、特別活動の特質に応じて適切な指導をすること<sup>※41</sup>。</p> <p>2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) [学級活動]については、学校、生徒の実態及び第1章総則の第4の3の(2)に示す道徳教育の重点などを踏まえ、各学年において</p>	

○中学校学習指導要領

取り上げる指導内容の重点化を図るとともに、必要に応じて、内容間の関連や統合を図ったり、他の内容を加えたりすることができること。また、個々の生徒についての理解を深め、生徒との信頼関係を基礎に指導を行うとともに、生徒指導との関連を図るよう<sup>※41</sup>にすること。

(3) (略)

3 (略)

取り上げる指導内容の重点化を図るとともに、必要に応じて、内容間の関連や統合を図ったり、他の内容を加えたりすることができること。また、個々の生徒についての理解を深め、生徒との信頼関係を基礎に指導を行うとともに、生徒指導との関連を図るよう<sup>※41</sup>にすること。

(3) (略)

3 (略)

※41 第1章及び第3章が改正されたことを受け、「特別の教科 道徳」として改正された。